

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	都島区地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☒ その他 (終活・成年後見制度等の利用促進・緊急連絡先の確保)	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	高齢者が元気になるうちからもしもの時を考える	
地域ケア会議から 見えてきた課題	支援困難として地域ケア会議で検討される7割が独居のケースであった。子どもがいない、いても音信不通、親族がいないケースが8割を越えていた。認知症や精神疾患があり物事を決めることに支援を要するケースが6割以上であった。いざという時にキーパーソンがいないケース、いても高齢の夫婦や高齢の兄弟姉妹で、支援を得ることが難しいケースが増えている。離婚、死別、子どもがいない、生涯独身、親族と疎遠など、今後さらに身寄りやキーパーソンがいないケースの増加が見込まれる。 一人でも多くの高齢者が、元気になるうちから将来について考え、将来像を描き、備え、より良い高齢期を安心して過ごせるよう、啓発を行い事業に取り組む必要がある。	
対象	都島区の高齢者、高齢者を支援している介護、福祉、医療の支援機関、地域の関係機関の支援者	
地域特性	南北に長い都島区の南半分で、JR・京阪・大阪メトロの駅が複数あり梅田へのアクセスも良く、区役所や区民センター、警察署、消防署等の公共機関があり、利便性が高い圏域である。川を越えれば北区や大阪城が隣接し、天神祭りや花火で賑わう。南部は1号線が東西に通り交通量が多い。繁華街、雑居ビル、単身向けマンション、家族向け大型マンション、古くからの戸建てや長屋が混在する地域である。徒歩圏内にスーパーが無い地域があるが、全体的に商店街、商業施設、店舗、医療機関等が多い。長年住んでいる方が多く、転入もあるが、高齢者数は減少傾向にある。新しいマンションが建つ一方、築40年1000世帯のうち6割が70歳以上の高齢者というマンションなど、住民の高齢化が進んだマンションや集合住宅が複数ある。高齢者の多いマンションからは孤独死や近所付き合いの希薄さから、不安の声があがっている。	
活動目標	・高齢者が終活について触れる機会を設ける。 ・いざという時のために、緊急連絡先の準備や情報更新が必要なことを周知する。	
活動内容 (具体的取組み)	男の終活 孤立しやすい男性高齢者、または独居男性高齢者に向けて講座を開催し、終活をおこなう。もしものときをイメージし、必要な情報提供をおこない、準備や心構え、緊急連絡先の確保などを周知啓発する。事前アンケートによりテーマを決め、当事者の意見を聴取し、安心して生活できるよう支援する。 必要に応じて制度につなぐ。 R5.6.16「財産について」9名 相続、税金、財産整理、遺品整理 など R5.9.15「葬儀について」9名 自分の葬儀を考える、宗派、費用、成年後見制度 など R6.1.19「エンディングノートについて」7名 エンディングノートの内容、緊急連絡先の確認、伝えるツール など もしもの時を考える～お後がよろしいようで (家族介護支援事業) 終活をテーマに講座を実施し、終活や高齢者施設、看取りなどをテーマに取り上げた。 R5.8.1「終活について～何から整理しましょうか」29名 いろいろな終活、エンディングノート、緊急連絡先の確認、葬儀、老後の資金、成年後見制度、リバースモーゲージ、やり残したこと、自分から家族に伝える R5.8.8「高齢者施設ってどんなところ？～介護施設や有料老人ホームを知る」29名 特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホーム、介護付き有料老人ホーム 住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅 それぞれの特徴 R5.8.29「在宅での看取り～自宅で最期を迎えることは…」27名 在宅での看取り最近の傾向、メリットデメリット、事例紹介	

	センター内に、「もしもの時にそなえるコーナー」を設け、パンフレットなどの情報提供をおこない、必要に応じて相談を受ける。 ・エンディングノート345冊（もしもの時に伝えたいこと124、私のケアノート156、他65） ・緊急連絡先カード201枚（あんしんカード78、もしもの時に伝えるシート123） ・パンフレット類（成年後見制度、あんしんさぼーと事業、人生会議、緊急通報システム,等） ・みやこじまあんしんカプセル 包括が実施する事業等で終活や緊急連絡先の準備を周知する。 周知 77名
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	それぞれの事業等でのアンケートや聞き取りで、「自分や家族の将来について考えるきっかけになった」「もっといろいろなことを知って準備したい」等の意見が複数あった。また、事業の後は、成年後見制度やあんしんさぼーと、身元保証NPOの相談や、施設・入所に関する相談が増えた。また、「もしもの時にそなえるコーナー」のエンディングノートや緊急連絡先カードについても、事業の後、配布数が増えており、事業実施の効果があったと考えられる。さらに、「もしものコーナーの緊急通報システムの案内チラシをもらい、申請した」「緊急通報システムの申請に、親族や協力者の連絡先の記入欄があったので、疎遠になっていた親族に連絡をとった」との声も聞いている。
今後の課題	身寄りやキーパーソンがいない独居高齢者数は増加が見込まれており、住民が年を取るとともに、新しい高齢者が増加してくる。若く元気なうちには考えが至らなかったことも、現状に即して考える機会が必要となる。今後も終活に関すること、成年後見制度・あんしんさぼーと事業・緊急通報システムなどの情報提供をしていくとともに、緊急連絡先の確保や更新について周知していく必要がある。また、近所付き合いの希薄さに対する不安について、マンションなどの集合住宅に対して、住民どうしの関係性の再構築についても引き続き進めていく。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営 協議会からの意見等を記載。	・地域ケア会議から見えてきた課題として処遇困難事例において独居や親族がいても連絡が取れないケースが多く、さらにキーパーソンがいない場合等支援の介入が難しいケースがある。このようなケースに対しては、元気なうちからもしもの場合に備えいざという時の緊急連絡先の準備や将来の意思決定が尊重できるようにあらゆる機会をとらえその必要性についての周知活動を行い、実際に都島区内の独居高齢者の徘徊ケースが「もしもの時に伝えるシート」を外出時に鞆に入れており保護された際に担当のケアマネージャーに連絡がつき事なきを得た人もいた。今後も独居で身寄りのいない高齢者が増えていくことは予測され継続的な取り組みを期待する。